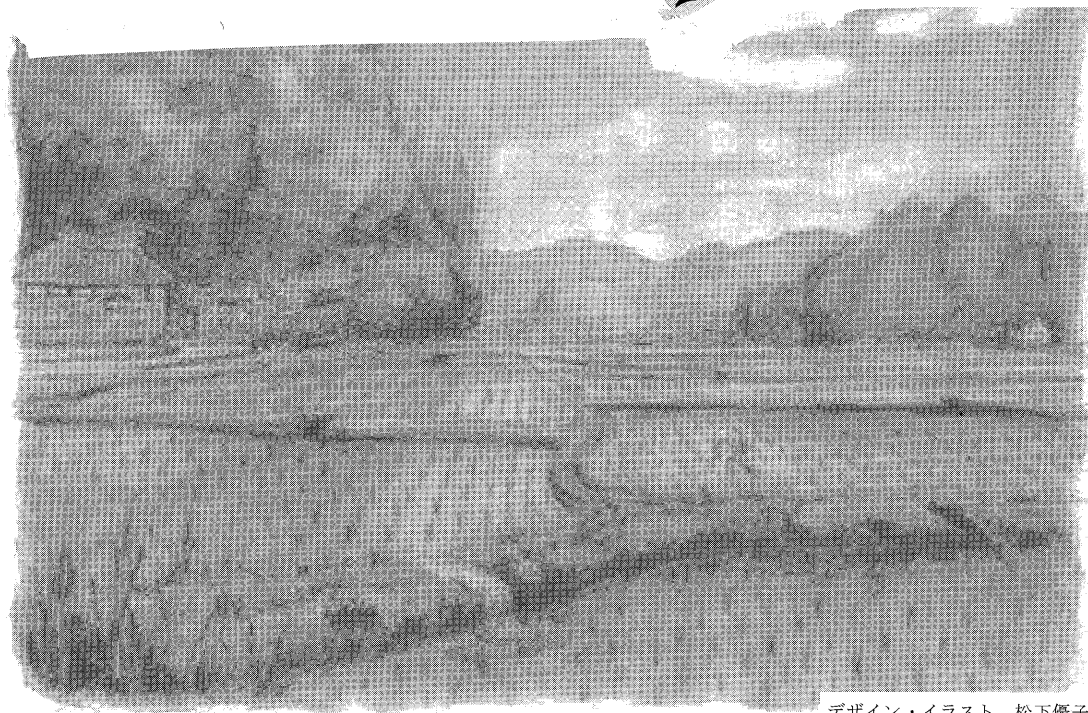


里山フェスティバル共催行事

「里山シンポジウム」のご案内

里山に託す私たちの未来



デザイン・イラスト 松下優子

里山とは……

自然と調和・共存する人々の生活に育まれた森林・草地から水田や畑、川沼、水辺、そして集落を含む人と自然と文化とが一体となった空間です。

日時 2004年5月15日（土曜日）

午前10時～午後4時30分

場所 かずさアカデミアパーク・かずさアカデミアホール

里山は、自然と人との共存の場であり、現在および未来の人々にとって大きな価値を有します。この里山の保全・再生と活用を目指し、千葉県では2003年5月に「里山条例」を施行しました。しかし、その趣旨を各地の現場に根付かせるためには、行政をはじめ、農家、市民・NPO、研究家等が互いに力を合わせた息の長い取り組みが求められます。

今回の里山シンポジウムは、里山条例の施行1周年を記念すると共に、里山をめぐるさらなる取り組みへの大きなきっかけにしたいと思います。

主催：里山シンポジウム実行委員会

千葉県

千葉県緑化推進委員会

スケジュール

10:00 開 会 総合司会 桑波田 和子

10:00~10:10 主催者挨拶 里山シンポジウム実行委員会 代表 金親 博榮

10:10~10:40 基調講演 千葉県副知事 大槻 幸一郎

10:40~12:00 分科会 第一部

- 1 教育・学習 2 医療・福祉 3 森林・林業 4 稲作・水 5 文化・伝統
6 観光 7 水循環 8 生物・ビオトープ 9 残土・産廃 10 芸術 11 政策

12:00~13:00 昼食、交流

13:00~15:00 分科会 第二部

15:00~16:30 各分科会 報告

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 教育・学習 : 土居 元 | 2 医療・福祉 : 赤城 建夫 |
| 3 森林・林業 : 稗田 忠弘 | 4 稲作・水田 : 吉井 光 |
| 5 文化・伝統 : 加藤 賢三 | 6 観 光 : 瀧 和夫 |
| 7 水 循 環 : 高橋 晴雄 | 8 生物・ビオトープ : 田中 正彦 |
| 9 残土・産廃 : 川本 幸立 | 10 芸 術 : 小堀 修司 |
| 11 政 策 : 柳沢 吉則 | |

16:00~16:30 パネル討論

「里山に託す私たちの未来、その現状と展望」

パネラー

堂本 暁子 (千葉県知事)

大槻 幸一郎 (副知事)

金親 博榮 (実行委員会代表、千葉市森林組合)

小西 由希子 (〃 副代表、ちば環境情報センター)

栗原 裕治 (〃 副代表、千葉まちづくりサポートセンター)

コーディネーター

中村 俊彦 (千葉県立中央博物館生態・環境研究部長)

16:30 閉 会



シンポジウム・主催者挨拶

里山シンポジウム実行委員会 代表 金親 博 榮

昨年春、この地、かずさアカデミアパーク、において、全国植樹祭が開催され、里山条例が施行された5月18日を「里山の日」としてから、1年が過ぎました。今回のシンポジウムは、この1周年記念行事である「里山フェスティバル」の中心をなす催しとして、企画致しました。

スタートは昨年11月、里山に関わる県内の団体に、千葉県および千葉県緑化推進委員会が加わり、仮の実行委員会を立ち上げました。そして、去る2月14日には「第1回里山勉強会」を開催し、300名あまりの方々の参加を得ました。

この勉強会を契機として、新たに積極的な県民が加わり、本日のシンポジウムの主催者となったこの実行委員会が、出来上がる事となりました。その後、協賛団体も、大幅に増加し、100を超える事となりました。

古来、豊かな自然に恵まれ、温暖な気候の千葉県では、都市を支えるたくさんの村々が在りました。農村では、田や畑とそれに連なる林が、ひとつの輪となり、永続的な再生産を繰り返してきたのです。しかし、近年そのサイクルが、分断され、生活のあらゆる面で見られるのと同じく、対症療法的な対応と、途切れ途切れの社会事象が目立つようになりました。里山の荒廃もその一例と言えるでしょう。

この荒れた林や田畑が、元来持っていた色々な役割、機能を、改めて注視すべき時が来たのです。今回のシンポジウムでは、その多くの機能を、とりあえず11に分け、分科会としました。分科会では、各々の分野での市民や専門家に加え、その分野に関係する県庁内の各課の方々に出席をお願いしました。

里山はややもすると森林や林業だけのものにとらわれがちですが、私たちは、森林はもちろん田畑や池沼も含んだ環境と人々の暮らしの総体として里山をとらえ、広い視点での保全・活用の取り組みが重要と考えています。特に行政の方々との関係については、それぞれの枠を越えた、複合的かつ総合的取り組みの必要性を感じているところです。本日は、森林・みどりにかかわるの方々をはじめ、幅広い分野の大勢の方にお越し頂きました。この意味では、従来の枠組みを、一歩踏み出た試みとなるものと、考えており、ご協力下さったの方々には、深く感謝申し上げます。

複数の分科会に参加したいと考えておられる方も多い事と思いますが、前半では、基調講演に加え、各々が別室にて勉強し、互いの認識を深める場として分科会を設定いたしました。後半では、互いに他の分科会の話も聞く事の出来る時間を作りました。

本日のこのシンポジウムが、長い「里山再生活動」の、大きな出発点となり、近い将来、命を育む多くの里山が、再びこの千葉県に蘇る日が来るものと確信し、努力して参りたいと思います。

準備期間が短く、制約も多い中、全員がボランティアスタッフのスタッフとして、一所懸命との思いで努めております。不十分な点は、沢山あるかもしれませんが、善意と寛容の精神でお許し下さる様お願いすると共に、これまでの関係者のご協力に感謝して、主催者代表としての挨拶と致します。

里山に入る前に

千葉県副知事 大槻 幸一郎

1. 森の区画はどの様に決められているのか

貴方の家には住所がありますね（〇〇町〇丁目〇番地）・・・**位置の確定**

土地の面積が登記してありますよね（〇〇平方メートル）・・・**広さの確定**

森（里山）は位置や広さをどの様にして確認できるのでしょうか

- ・ **森林図（森林簿）**の元になっている**公図**は、**地籍調査**（昭和26年から「国土調査法」に基づき実施。実施率は全国平均で45パーセント、千葉県は12パーセント）が行われていないと見取り図的なものが大部分であり**信頼度は低い**。
- ・ 協定を結ぶときにこの現実を十分理解した対応が必要

2. 森林（里山）所有者の現実を理解しよう

森が荒れていると言われますが、どうしてそのようになるのでしょうか

- ・ 森を育てて（**投資**して）も生活（**経営**）が成り立つのでしょうか
- ・ 森林**所有の零細性**は経営の障害
- ・ 林家一戸当たりの**年間収入**は
- ・ 後継者は育っているのでしょうか

3. 里山整備の内容をどの様に考えていったら良いのだろうか

- ・ **森林－田圃・畑－水系の一体的な把握**が出来る目を養う
- ・ 森は、放置しておいたらどの様に変化していくのか（**時間の変化に対応した自然遷移**）。その時、人々の生活との関連でどの様な不都合が起きるかをイメージ出来る能力
- ・ **森に手を加える**と言うことはどの様な**意味**があるのかを考える（自然遷移の動きを止めたり、早めたりする）
- ・ 大胆な変化や、段階的な変化の中で**森の動き**がどの様な差があるかを**体験**することが重要

「2004年2月14日 第1回里山勉強会での講演内容」

里山整備の展望

1. 里山の思い出

新潟県北魚沼郡湯ノ谷村（**フナ**、ゼンマイ）、新発田市（マツ、ツツジ）、秋田県本荘市（**マツ**、アケビの蔓、とりもち・かすみあみ）、大曲市（**スギ**）、栃木県宇都宮市（**コナラ**、トラツグミ）、北海道北見市（**カラマツ**、落葉きのこ）、留辺蘂町（**トドマツ**、エゾ紫ツツジ・マツタケ）、神奈川県川崎市麻生区（トトロの森・コナラ・**クヌギ**）、佐賀県佐賀市（**ミカン畑**・スギ・タケ）、長野県長野市（スギ・マツ、**蕎麦畑**）

2. 職業人としての森の思い出

北海道時代（大雪山・**知床半島**の営林署にて・**エゾマツ**・カバ類の針広混交林・**ヒグマ**・**クマゲラ**）

秋田時代（秋田杉・**白神山地**のブナ林）

佐賀県時代（スギ・ヒノキの人工林率9割、日本一の**林道整備**、**屋久島**のスギ）

長野時代（木曽谷の**赤沢自然休養林**、戸隠自然休養林、日本一高価な**木曾ヒノキ**）

3. 千葉県の森は今！！

昭和45年からの34年間で**森林の1割が消え去った**（日本一の減少率は異常）

ゴルフ場（148カ所、全国3位 | 県土占有率3パーセント、全国1位）

残土置き場、**採石（土）場**、住宅用地、**産廃不法投棄現場**

手入れの行き届かない人工林（間伐手遅れ、枝打ち、竹や蔓の侵入）

利用されない二次林（スズタケ、下層植生の後退）

サンプスギの溝腐れ病による壊滅的被害

4. 里山条例の制定

動機

- ・第54回全国植樹祭（2003年5月18日）
- ・政策法務研究プロジェクト

5. 里山整備団体への期待

- ・**整備と活用のユニークさ**（継続は力なり、されども人の心は虚ろなり）
- ・**NPO、行政の協働作業の提案**（・・・をして下さいから、・・・を一緒にやろうの方向へ）**実行の総括**を（提言集の発行、シンポジウム）
- ・情報の共有（**里山新聞**の発行）
- ・組織の個性の相互理解（違いを認め合い、共有して新しい発見・感動を）

6. 民間企業への期待

- ・ 企業活動（メセナ活動）として（今や**環境に関心なき企業は3流**の時代）
- ・ 社員の研修・教育の場
- ・ **開発留保地の無償提供**（一般の森林所有者も同様）

7. 行政機関への期待

- ・ **美しい日本・千葉県づくり**がその使命（観光立国，立県への条件）
- ・ 東洋的**原風景の里山**に秘められる魅力の発見
- ・ 里山は文化資源、**文化を感じぬ行政に明日はない**

8. 里山整備の方向性

- ・ 里山ドラマの**演出家**が貴方だ（FOREST DIRECTOR）
 - ・ 主人公は誰？ 楽しい話それとも悲恋もの？ 舞台の装置はどんな素材？
お客さんに得て欲しいものは何？
- ・ 演出の際のキーワード（**ふれあい・FREAI**）
 - ・ **森と人とのふれあい**で感じて欲しいこと
 - ・ 森の中で**人と人のふれあい**で感じて欲しいこと

F Forest、Forestry、Future

R Research、Recreate、Regeneration

E Education

A Adventure

I Impression

9. 里山活用の新しい視点（**21世紀をどう展望**するか）

少子高齢化の時代（青少年教育【人間教育】と高齢者の生き甲斐【生涯】教育）

健康と福祉の時代（健康人間である秘訣【運動による若さ、気力維持】介護）

・・・ **森をキーワードに教育・医療・介護にどう生かすかがポイント**・・・

・ **森林インストラクターと教師・保育士・医師・看護師・理学療法士・介護士等**
の連携が期待

メ 毛

1. 里山と教育・学習分科会

会場：第10控室（1F）

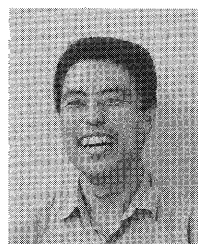
テーマ：大人も子どももみんなで楽しむ ～まずは気づきから始めよう～

趣 旨

里山ってなに？こう聞かれても一口では言い表せないほど多様ななかかわりの中で存在しています。人と自然とのかかわり、その中で存在している人と人とのかかわり、そして、そこにいる自分とのかかわり。私たち教育・学習分科会は、室内で頭をひねっているよりも、まずは外に出て実際に里山を体感してみる事から始めてみたらどうだろうかと考えました。何を感じ、どう考え、そして行動していくのか。当分科会に集まってくださった皆様、大人も子どもも一緒に楽しみながら、みんなで何かの形を作ってみたいと思います。

スケジュール

- 10：40～11：00 ようこそ教育・学習分科会へ
顔合わせとともにお互いを知る活動
- 11：00～12：00 自然体験活動1
里山を感じる活動「五感を使い遊ぼう1」
- 12：00～13：00 昼食
- 13：00～13：30 自然体験活動2
里山を考える活動「五感を使い遊ぼう2」
- 13：30～14：15 自然体験活動3
里山を表現する活動「漫画で遊ぼう」
- 14：15～14：40 まとめ
みんなで分かち合い「スライドショー」
みんなはこれからどうする？「アクションプラン」
- 14：40 終了
※天候など、状況によりプログラムを変更する事があります。



メンバー

分科会代表：土居 元
記録係：津山 彰彦
実行委員：大谷 芳孝、上地 智子

2. 里山と医療・福祉分科会

会場：103会議室（1F）

テーマ：房総の里山・里海の可能性 ～森林療法・磯浜療法～

趣 旨

千葉県の代表的な自然環境である里山・里海を医療、福祉の実践の場として位置付け活性化することを目的とします。そのために今回、千葉県の里山・里海を多面的に（地理、生物、文化、歴史等）に再確認して頂き、森林療法研修につながります。行政をはじめ医療・福祉、教育、農林漁業、商工業、NPO等様々な立場の方にご参加願ひ、皆様と共に療育・健康増進活動における里山・里海の有効性・可能性を検討していきたいと考えております。

スケジュール

- 10：50～12：00 第一部 房総の里海
清野 聡子（東京大学大学院総合文化研究科助手 千葉県三番瀬委員）
千葉県の里海に関わるお話をしていただきます。戦後木更津の自然変化：海岸、畑、防風林等の時代変化を画像資料で説明。昭和30年代まで鋸南町が行った、海岸を活用した子どもの受け入れ事業、泉水産課が当時の写真資料所有。千葉県は首都東京に隣接し保養地として、又結核の転地療養地として既に機能していた。木更津は文人療養者が多くサロン化が見られた。
- 12：00～13：00 昼食、交流
- 13：00～14：30 第二部 森林療法とは
赤城 建夫（千葉県千葉リハビリテーションセンター心理発達科長）
座学 森林療法の概要説明。ドイツのクナイプ療法：基本的アイデアについて。
フィトンチッドの話（森のかおりの作用）～なぜ、森は人を癒す効果をもつか～。
現在千葉県での森林療法の事業紹介
野外実習（雨天の場合は室内で工夫する）
～感覚を高める～。気づきを高めて様々な 自然の息吹（風、光、香りなど）を感じ取ってみよう..
感じ取れる自分の体のなかを知ろう..爽やかな自己の中で人のあたたかさ、手に触れてみよう
- 14：30～14：40 質疑応答、まとめ



メンバー

分科会代表：赤城 建夫
分科会副代表：林 みね子
記録係：福満 美代子
実行委員：山崎 美香、大内 郁
横田 耕明、西村 早苗
渡辺 清江、増田 淳
宮村 賢治

3. 里山と森林・林業分科会

会場：202B会議室（2F）

テーマ：森林とくらし

趣旨

国内林業の不振から手入れの行き届かない森林が増え、千葉県では溝腐れ病による山武杉林の荒廃が目を見わたるばかりです。人工林には未利用材が放置され、市場では30年・40年と育てた杉の木がコンビニのおにぎりより安い値段で取引されているという異常な状況が続いています。また、雑木林も生活・活用のスタイルの変化により放置され、林床にアズマネザサが繁茂する状況になっています。

しかし一方では健康的な暮らしや、スローライフと呼ばれるようなライフスタイルのために、木の家に代表されるような天然素材系の住まいを求める声も多くなっています。また、地球温暖化など環境問題への危機感から、環境に負荷を与えない木質バイオマスエネルギーとしての木材も注目されつつあります。森林・林業分科会では千葉県の現状を踏まえ、森林管理と活用の可能性について考えます。更に、千葉の山林から産出される木材で千葉の民家を造るなど、森の恵みを活かす地産地消の暮らしづくりによる森林再生の道を探ります

スケジュール

- 10：50～11：20 県民参加型の森づくりの試み
小平 哲夫（千葉県森林研究センター）
- 11：20～12：00 森とくらしを結ぶ民家づくりの実践
稗田 忠弘（さんむフォレスト代表）
- 12：00～13：00 昼食、交流
- 13：00～14：30 パネルディスカッション「森林とくらし」
パネラー 小平 哲夫（研究者）
杉田 和陳（林業家）
清水 道子（消費者・大地を守る会）
西塚 健治（製材業、さんむフォレスト副代表）
- コーディネーター 稗田 忠弘
- 14：30～14：40 質疑応答、まとめ



メンバー

分科会代表：稗田 忠弘
分科会副代表：桐山 正治
記録係：桐山 正治
実行委員：金親 博榮、大和田 恭、鎌形 多美夫
飯田 英徳、西塚 健治、鈴木 剛治
本間 一夫、中田 麗子

4. 里山と稲作・水田分科会

会場：プレゼンテーションルーム（1F）

テーマ：環境に配慮し、持続性可能な農業へ

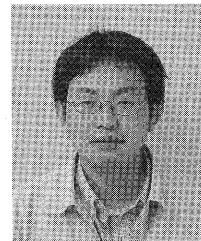
趣旨

稲作は、古くから現在まで日本の農業の中心となってきました。また、田んぼは食料生産の場としてだけでなく国土と地域環境を支えてきました。現在、稲作・水田は、生産者の高齢化や減反政策による耕作放棄地の増加、効率化と集約化の影響による環境への付加の増大など、様々な問題を抱えています。

稲作・水田分科会では、ご参加いただいた皆さんと話し合い、持続可能な農業へ向けて生産者・市民・行政がどのように取り組んでいくべきか考えていきたいと思います。

スケジュール

- 第一部 県職員の方と、現在里山田んぼに関わる活動をしている方から、お話を伺います
- 10：50～10：55 主旨説明
- 10：55～11：15 食料・農村・農業基本法に基づく米改革について 県職員
- 11：15～11：35 環境にやさしい基盤整備について 県職員
- 11：35～11：45 成東町早船地区の谷津田復元への取り組み 木下 敬三
- 11：45～11：55 安心・安全と地域環境に配慮した田んぼへ
田崎 愛知郎（首都圏コープ事業連合）
- 11：55～12：10 宮城県田尻町の事例
呉地 正行（日本雁を保護する会会長）
- 12：10～13：00 昼食・交流会
- 第二部 環境に配慮した田んぼ、持続可能な田んぼへむけて、参加者の皆さん全員でテーブルを囲んで話し合います。
- 13：00～14：30 これからの担い手と、稲作・田んぼのあり方について
- 14：30～14：40 質疑応答、まとめ



メンバー

分科会代表：吉井 光
分科会副代表：所 英亮
記録係：木下 敬三
実行委員：鳥井 報恩、荒尾 稔
田崎 愛知郎、相馬 由起子
宮城 直

5. 里山と文化・伝統分科会

会場：第7控室 (1F)

テーマ：里地里山のくらしと文化

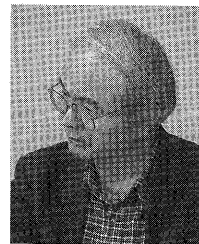
趣旨

食・農と環境の現場が里地里山にあります。私達の暮らしが永続できるための、持続可能な社会の構築を考えるとき、食・農・環境と文化を考える視点は欠くことが出来ません。

歴史的には、縄文的なくらしから始まって、江戸、明治、そして現代までに変わってきたわたくしたちの暮らしを振り返り、景観に配慮したこれからの里地里山の保存と創出を文化・伝統と言う目線から考える良い機会でもあります。古くて新しい、地域の文化資源、自然資源などをもっと知って、まちおこし、地域おこし、さらに観光資源にまでなるような、新たな提案に発展するような話し合いにしたいと願っています。

スケジュール

- 10:40~10:50 主旨説明
- 10:50~11:20 現代社会における景観の意味と里山保全
西野 元 (国土館大学文学部)
- 11:20~11:40 地域資源の再発見とブルー・グリーンツーリズム
小川 信次 ((財)千葉県建設技術センター)
- 11:40~12:00 里山フィールドミュージアム
島立 理子 (千葉県立中央博物館)
- 12:00~13:00 昼食、交流
- 13:00~13:20 安久山の里地里山と文化
平山 喜人 (飯高の巨樹と里山物語)
- 13:20~13:40 地域社会と野生生物
小島 孝夫 (成城大学文芸学部)
- 13:40~14:30 パネルディスカッション 「里山のくらしと文化」
コーディネーター 西野 元
- 14:30~14:40 質疑応答、まとめ



メンバー

分科会代表：加藤 賢三
記録係：田桐 義啓
実行委員：平山 喜人、福原 経正

6. 里山と観光分科会

会場：メインホール

テーマ：母なる里山に抱かれて

趣旨

千葉県は東京湾岸に巨大工場に代表される工業化が進められた一方、現在も屈指の農業県で、歴史を感じさせる豊かな里山がたくさん残されています。

この里山もそこに住む人々の生活に合わせて変化して行くと思いますが、県は自然界と人間が一体となって共生してきた里山を大切に守り、後世に残すために「里山条例」を制定しています。

また、このすばらしい里山を多くの人々に親しんでいただく「観光立県」にも取り組んでいます。千葉県には、ディズニーランド、幕張メッセ、成田山や佐原水郷などの観光地ばかりでなく、小粒ではありますが「里山に抱かれた暖かな憩いの場」がたくさんあります。「里山に暮らす人々」も「憩いの場を求めて訪ねる人々」も満足しあえる「里山と観光」を模索します。

スケジュール

- 11:00~11:10 挨拶と趣旨説明
- 11:10~12:00 千葉県の里山と観光のむかし・いま・これから
岩瀬 正夫 (千葉県商工労働部参事)
- 12:00~13:00 昼食
- 13:00~13:25 里山とエコツーリズム
飯田 裕子 (プロカメラマン)
- 13:25~13:50 里山と観光農業
愛沢 伸雄 (安房高等学校教諭)
- 13:50~14:15 里山と公園
浅井 信 (館山市観光アドバイザー
/NPO法人千葉自然学校理事)
- 14:15~14:40 意見交換・質疑応答



メンバー

分科会代表：瀧 和夫
分科会副代表：石井 星守
記録係：千葉 智雄
実行委員：千葉 雅弘、石井 裕一
天野 佳正、田中 崇大
高田 良江

7. 里山と水循環分科会

会場：第1控室（1F）

テーマ：里山・水・未来

趣旨

水は、地球上のあらゆる生き物にとって不可欠な資源であり、ほとんどの生き物が地球上に存在するわずかな量の真水に頼っています。この大切な水は、地表・海上などから蒸発し・降雨・地表流・地下浸透…と循環し私たちの生活や生物環境と密接な関係にあります。

水循環分科会では、勝浦市大森の里山の水の流れを追いながら、現在の里山の置かれている現状を知り、問題点を探ります。

また、河川や印旛沼への県の取り組み、水田を利用した水質浄化のお話を伺い、里山と水循環について、全員参加のワークショップを開きます。そこでは、今私たちに何が出来るのかを探って行きたいと思っています。

スケジュール

11:00~11:10 主旨説明・自己紹介

11:10~11:40 勝浦市大森の里山から

岡野 竹義（みどりのボランティア）

11:40~12:10 印旛沼の水環境改善について

吉田 正彦（千葉県県土整備河川計画課）

12:10~13:00 昼食・交流

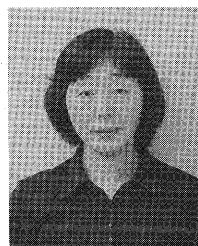
13:00~13:30 水田を活用した水質浄化モデル事業調査から

石原 正規（我孫子市役所）

13:30~14:30 ワークショップ（全員参加）

湧水保全・河川・水質浄化の3グループ編成

14:30~14:40 まとめ



メンバー

分科会代表：桑波田 和子

分科会副代表：岡野 武義

記録係：桑波田 和子

実行委員：高橋 晴雄、荒尾 繁志

吉田 正彦

8. 里山と生物・ビオトープ分科会

会場：202A会議室（2F）

テーマ：里山まるごとビオトープ ～人との関わりから生まれる生物多様性～

趣旨

人が適度に手を加えること（稲作や山の手入れなど）によって、生物多様性が維持されている「里山の自然」を学術的に評価する。

第一部の事例発表では専門的・学術的な調査・研究の報告、評価などをそれぞれ分野ごとに発表し、人の手が加わることで生物多様性が維持されていることを明らかにする。

第二部のパネルディスカッションでは、午前中の発表者と県の職員をパネリストに、政策をふまえた里山保全と生物多様性の維持に関してディスカッションする。このディスカッションは、パネリストと参加者との対話型で実施する（結論を出すことを目的としない）。

スケジュール

10:50~11:03 里山での植物観察を通じて

細川 隆（千葉県立茂原高等学校）

11:03~11:16 昆虫から見た里山の変化

槐 真史（厚木市郷土資料館）

11:16~11:29 淡水魚類からみた谷津田の生物多様性

田中 正彦（千葉県立犢橋高等学校）

11:29~11:42 アカガエル類の卵塊モニタリング調査と谷津田保全

長谷川 雅美（東邦大学理学部）

11:42~11:55 鳥の目で見た里山の生物多様性

越川 重治（都市鳥研究会）

12:00~13:00 昼食

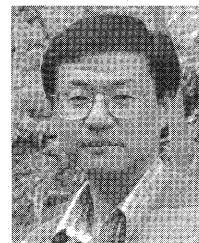
13:00~14:40 パネルディスカッション

コーディネーター 長谷川 雅美

パネラー 第一部発表者及び

竹重 貴志（県自然保護課）、熊谷 宏尚（県環境政策課）

14:30~14:40 質疑応答、まとめ



メンバー

分科会代表：田中 正彦

分科会副代表：網代 春男

記録係：木幡 英雄、網代 春男

実行委員：横山 武、鈴木 俊輔

染谷 迪夫、高木 純一

三輪 浩司、笹子 全宏

高木 晋、越川 重治

9. 里山と残土・産廃分科会

会場：102会議室（1F）

テーマ：里山を残土・産廃から守ろう

趣旨

残土・産廃がいかにか千葉県の自然を壊しているか、この生々しい現状を会場の皆様に訴え、なぜ千葉県に首都圏の残土・産廃が入ってくるのか。

積まれた残土を元に戻すことは到底できないままに、里山の代わりに残土の山ができてゆく。このいたましい現状どのようにしたら解決できるのか、里山の保存にあわせて考えていきたい。

スケジュール

10：50～11：00 挨拶自己紹介

11：00～11：25 各地からの報告

君津・木更津 産廃・残土 山田周二、鈴木紀靖

11：25～11：45 市原 残土・産廃 奥山 洋三(ほか地権者3名)

11：45～12：00 千葉 残土・里山 川本 幸立

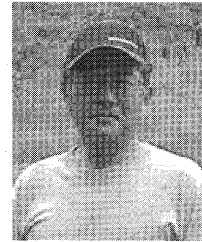
12：00～12：45 昼食

12：45～13：00 農業空中散布問題 半沢 勝男

13：00～14：00 行政施策の方法と抱負（各8分、7名）

県 産業廃棄物課、水質保全課、林務課
市 君津市

14：00～14：45 意見交換、まとめ



メンバー

分科会代表：川本 幸立

分科会副代表：井村 弘子

記録係：半沢 勝男

実行委員：奥山 洋三、山田 周二

鈴木 紀靖、井上 由紀子

末統 和枝

10. 里山と芸術分科会

会場：第2控室（1F）

テーマ：きっかけとしてのアート

趣旨

午前／第1部 ワークショップ

午前の70分のプログラムは、参加者が4グループ程度に分かれて、竹を利用した楽器づくりと、つくった楽器を使用したグループごとのパフォーマンスを行います。子どもの参加も大歓迎。屋外での活動を基本に考えています。実際にものづくり等を行うことで、自分の自然に触れた体験の思い出や、そうだったことの持つ意味や可能性について、楽しく振り返ってみてください。

午後／第2部 ラウンドテーブル

午後の100分のプログラムは、里山や自然に関わっていくためのきっかけとしてのアートをテーマにラウンドテーブルを行います。アートや里山についてよく知らないと言う方にも参加して頂きやすいように、身近なテーマをトピックスに設定しますので、気楽にお越し下さい。「里山と芸術」の可能性や課題について話し合い、次の活動につながる目標を絞り込んでいきます。

スケジュール

10：50～12：00 第1部 ワークショップ

コーディネーター 小林 正幸、高橋 小織

12：00～13：00 昼食・交流

13：00～14：30 第2部 ラウンドテーブル

コーディネーター 上島 浩美

ファシリテーター 栗原 裕治

14：40～15：00 休憩

16：30 閉会



メンバー

分科会代表：小堀 修司

分科会副代表：上島 浩美

記録係：瀧田 強志

実行委員：栗原 裕治、明石 薫、大島 賢一

片岡 大樹、陰山 祐一、小林 正幸

高橋 小織

11. 里山と政策分科会

会場：第9控室 (1F)

テーマ：里山保全の可能性を探る

趣旨

農業や林業において、後継者の不足や高齢化、産業構造の変化による木材価格の低下、食生活の変化による米消費量の減少など様々な社会的変化があります。これらを背景として、耕作放棄や生産調整によって田んぼを含む里山の一部は荒廃しているところも多くなってきました。私たちの身の回りから自然が失われていく一方で、豊かで多様性に富む里山の自然は、貴重な動植物の生息空間であると同時に、存在そのものが現代人の癒しであり、子どもたちの心をはぐくむ上でも大切であるといわれています。

荒廃する里山の保全にあたっては、農家の方々の努力だけではもう手に負えなくなっており、行政・市民・研究者が手を携えて各々の問題として主体的に取り組む必要が叫ばれております。

本分科会では、里山の保全のための政策提言をしていきたいと考えておりますが、まず、農家の方々のお考えお聞きし、さらに農業振興・食糧自給の支えとなっている農地法について学び、市民農園制度の運用など、現状の中で各主体に何ができ、どのように連携をとっていく必要があるのかを探っていききたいと考えております。

スケジュール

10:40～11:00 趣旨説明、自己紹介 (アイスブレイキング)

11:10～11:40 農地法のお話

岩井 洋 (千葉県農林水産部農地課)

11:40～12:00 田んぼの市民農園の実践事例

所 英亮 (元多古町農業委員会会長)

12:00～13:00 昼食、交流

13:00～13:30 市民農園について (設置目的と事例・練馬方式ほか)

大江 靖雄 (千葉大学園芸学部教授)

13:30～14:35 専業農家のお話

山崎 新市 (佐倉市小竹の専業農家)

消費者と生産者をつなぐ

戒谷 徹也 (大地の会職員)

意見交換、質疑応答

14:35～14:40 まとめ



メンバー

分科会代表：小西 由希子

分科会副代表：久保 浩

記録係：南川 忠男、柳沢 吉則

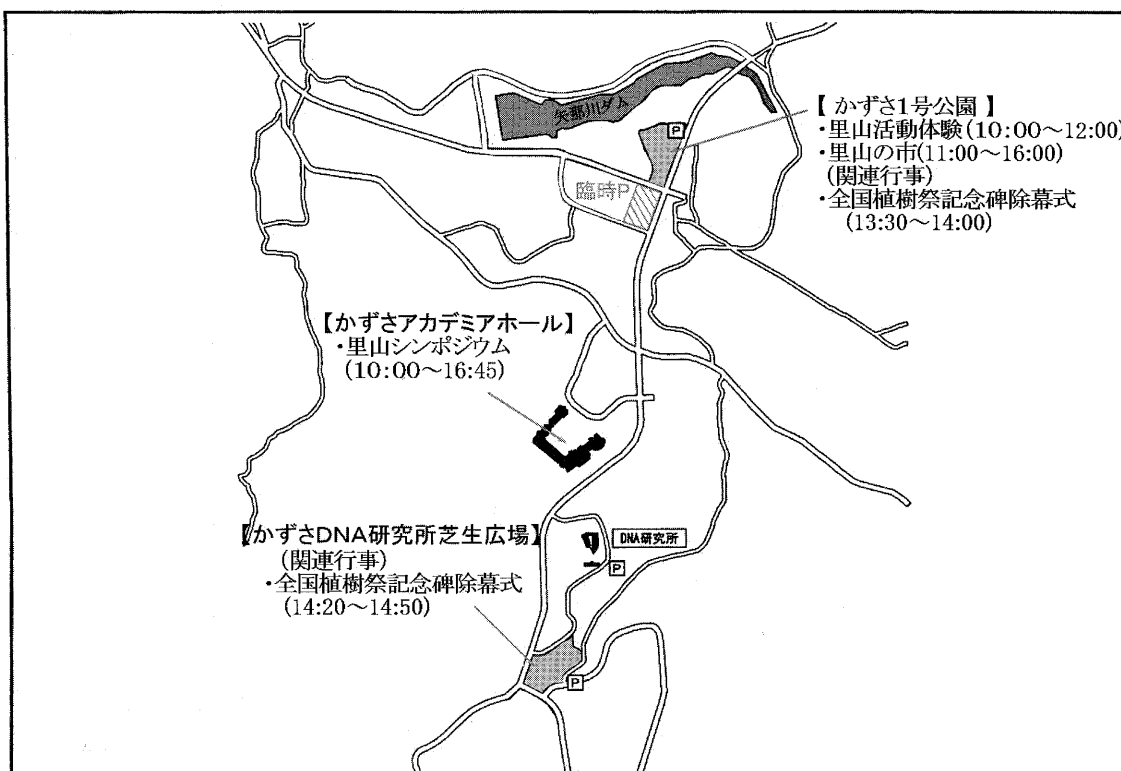
実行委員：小野 鈴子、成田 茂子

佐々木 典子、井口 和子

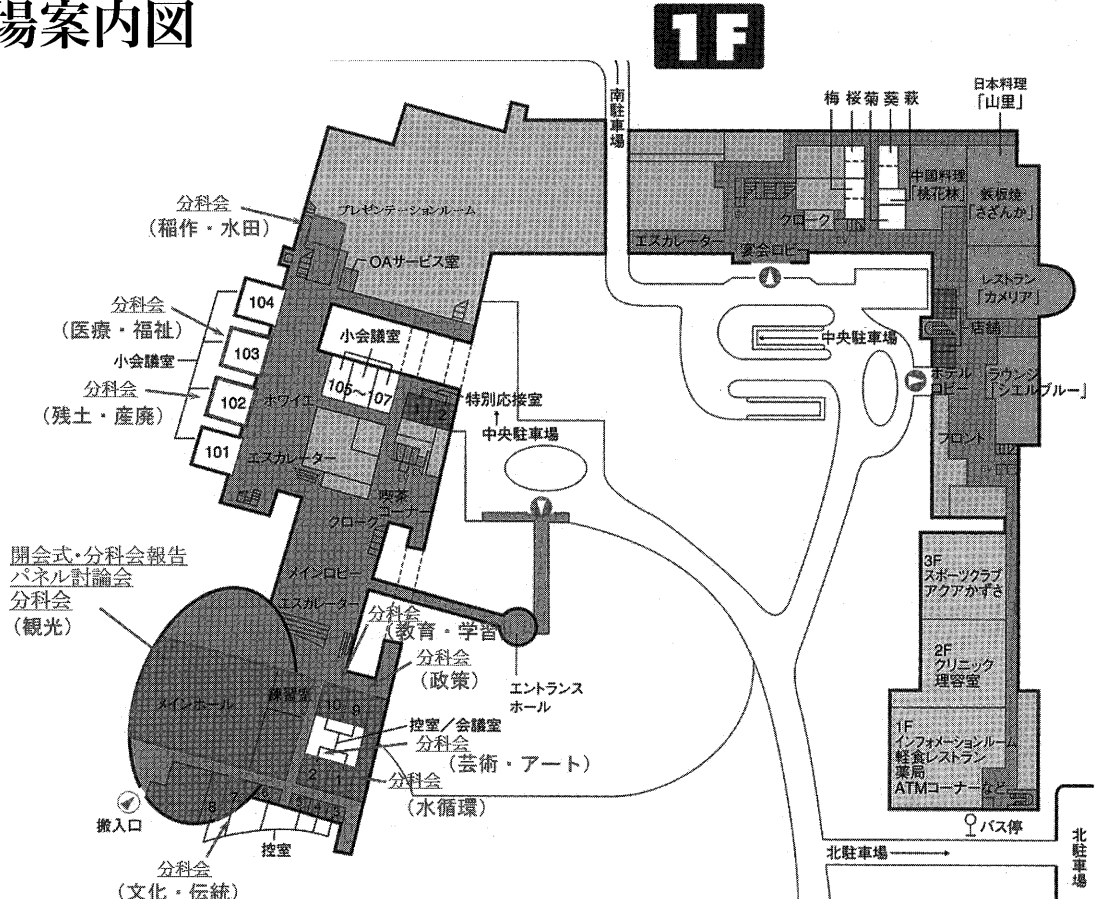
山口 由富子、伊原 加奈子

メ モ

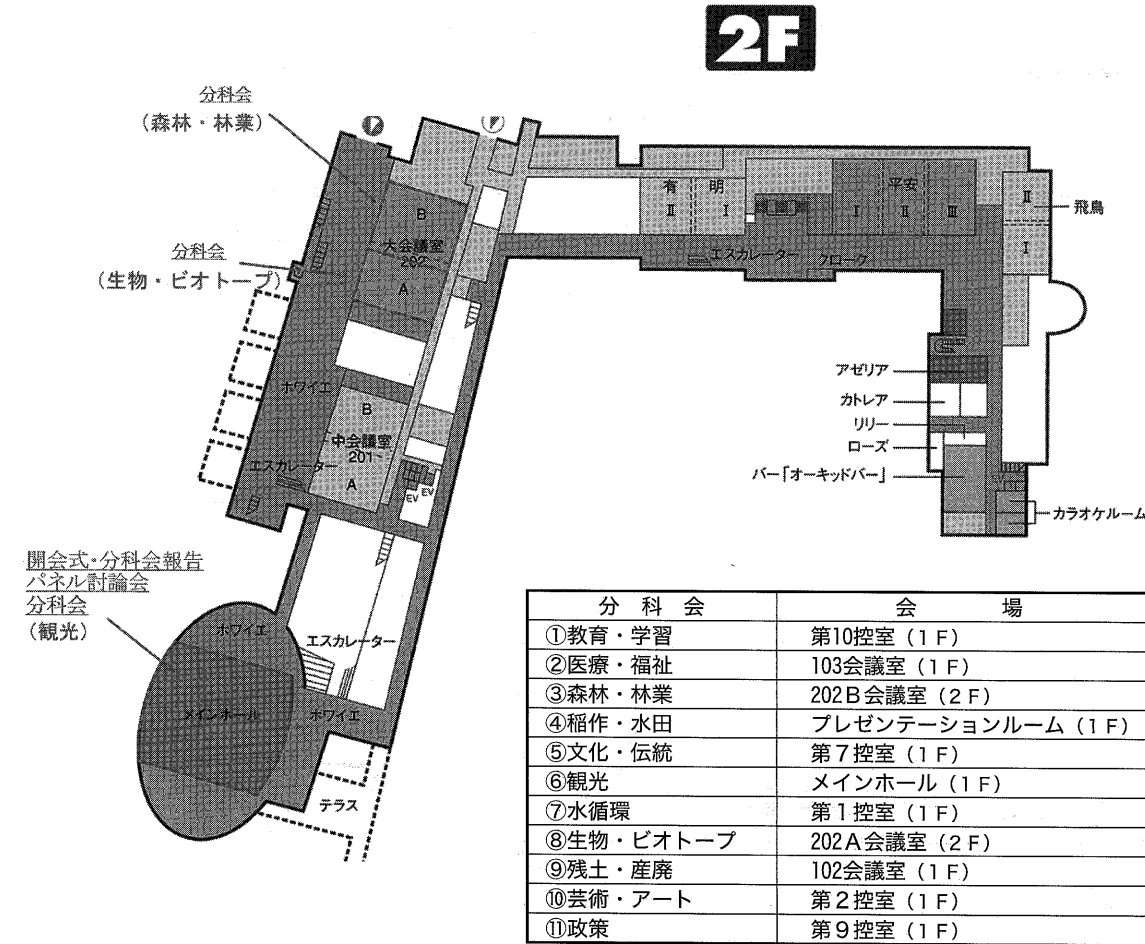
里山フェスティバル会場配置図



会場案内図



1F



2F

| 分科会 | 会場 |
|-----------|-------------------|
| ①教育・学習 | 第10控室 (1F) |
| ②医療・福祉 | 103会議室 (1F) |
| ③森林・林業 | 202B会議室 (2F) |
| ④稲作・水田 | プレゼンテーションルーム (1F) |
| ⑤文化・伝統 | 第7控室 (1F) |
| ⑥観光 | メインホール (1F) |
| ⑦水循環 | 第1控室 (1F) |
| ⑧生物・ビオトープ | 202A会議室 (2F) |
| ⑨残土・産廃 | 102会議室 (1F) |
| ⑩芸術・アート | 第2控室 (1F) |
| ⑪政策 | 第9控室 (1F) |

協賛団体一覧表 (50音順)

アルカディアの会、安馬谷里山研究会、いちほら市民ネットワーク、ウッディ工房、生活協同組合エル、おおくさ倶楽部、小びつ川の水を守る会、小見川竹炭研究会、上総里山会、鎌ヶ谷かわ・水・みどり、鎌ヶ谷ホタルの里、鎌取メンタルクリニック、環境パートナーシップちば、木更津市民ネットワーク、君津市民ネットワーク、グローバル・スクール・プロジェクト(GSP)、桑田里山の会、ゴミゼロネットちば21、さくらグリーンクラブ、さくら・市民ネットワーク、さくら・人と自然をつなぐ仲間、佐倉みどりネット、桜宮自然公園をつくる会、NPOさとやま、里山愛育会、さわら「地球村」、山武町環境問題連絡協議会、さんむフォレスト、CCC自然・文化創造工場関東事業部、酒々井・里山づくりフォーラム、(独)国立病院機構下総精神医療センター、残土・産廃問題ネットワーク・ちば、市民ネットワーク・千葉県、市民ネットワーク・のだ、しろい環境塾、樹木・環境ネットワーク、森林塾かずさの森、袖ヶ浦里山を歩く会、袖ヶ浦市民ネットワーク、ストップ地球温暖化千葉推進会議、ソフトインダストリー研究会、大地を守る会、耕さない田んぼの会、たのくろ里山保存会、千葉アートネットワーク・プロジェクト (Wi-CAN) 実行委員会、千葉エコネット、ちば千年の森をつくる会、ちば環境情報センター、千葉環境世紀研究会、千葉県建築家協会、(社)千葉県建築士会、生活協同組合ちばコープ、千葉県森林インストラクター会、千葉県自然観察指導員協議会、千葉県身体障害者福祉事業団、千葉県千葉リハビリテーションセンター、千葉県精神保健福祉協議会、千葉県木材振興協会、千葉県木材市場協同組合、千葉市里山ボランティアの会、千葉市心身障害者ワークホーム連絡会、千葉市森林づくりの会、千葉自然学校、ちばの山を愛する家造りネット、千葉まちづくりサポートセンター、ちば・谷津田フォーラム、千葉緑耕舎、東邦大学理学部生物学科地理生態学研究室、長生森の会、成東里山を保全する会、成山の自然を守る会、日本雁を保護する会、日本建築学会関東支部 千葉支所、日本自立プロジェクト、日本不耕起栽培普及会、ネットワーク『地球村』『山武地球村』、農薬空中散布反対千葉県連絡会、のれんを守る会、花見川の環境を守る会、人づくり街づくり環境づくり、船橋市どんぐりの会、PWプラスONE、プロジェクトとけ、北限のトビハゼを守る会、ぼんた里山の会、水と森と人IN神崎、水辺の植物同好会、緑のボランティア、実籾郷の会、都川と丹後堰公園に親しむ会、八千代オイコス、谷当グリーンクラブ、有害物質から子どもの健康を守る千葉県ネットワーク、有機農業推進千葉県ネットワーク、四街道自然同好会、四街道食と緑の会、四街道の農産物を大切に作る市民の会、四街道にプレーパークをつくる会、四街道メダカの会、ワークホーム里山の仲間たち

里山シンポジウム実行委員会

HP: <http://www.tml.co.jp/satoshinpo>

連絡先: 千葉市中央区市場町1-1
千葉県みどり推進課
TEL 043-223-3684